

燃やせるごみ組成分析調査状況一覧

* 収集地域 [青梅線以東地区: 神明台3・4丁目、双葉町、富士見平、五ノ神、緑ヶ丘、栄町地区]

* 収集日 平成22年12月14日(火) 小雨のち曇り

	種 類	22年度 収集量 (kg)	21年度 収集量 (kg)	20年度 収集量 (kg)	19年度 収集量 (kg)	22年度 割合(%)	21年度 割合(%)	20年度 割合(%)	19年度 割合(%)
1	紙ごみ(資源化できる)	13.84	40.38	15.20	30.04	6.92	10.09	7.67	10.02
	(資源化できない)	12.92	23.98	9.66	16.92	6.46	5.99	4.87	5.64
2	容器包装プラスチック (資源化できる)	10.02	13.50	6.98	15.02	5.01	3.37	3.52	5.01
	(資源化できない)	0.36	0.74	0.60	0.40	0.18	0.19	0.30	0.13
3	古布(資源化できる)	7.66	7.00	2.82	3.34	3.83	1.75	1.42	1.11
	(資源化できない)	2.74	6.02	3.24	2.32	1.37	1.51	1.63	0.77
4	生ごみ	120.46	210.98	143.22	205.44	60.23	52.75	72.24	68.48
5	軟質プラスチック ・電磁的記録媒体	2.32	3.28	1.44	1.54	1.16	0.82	0.73	0.51
6	その他	28.34	91.64	13.88	22.86	14.17	22.91	7.00	7.62
7	指定袋	1.34	2.48	1.22	2.12	0.67	0.62	0.62	0.71
	計	200.00	400.00	198.26	300.00	100.00	100.00	100.00	100.00

○ 紙ごみについては、資源化できるものは減少している状況であることから、市民の分別意識の向上が図れていると推測する。

○ 容器包装プラスチックについては、資源化できるものの混入率が増加した。今後は啓発活動を強化し、ごみ減量に取り組むよう市民に周知する必要があると考える。

○ 古布については、資源化できるものの混入率が増加した。今後は啓発活動を強化し、ごみ減量に取り組むよう市民に周知する必要があると考える。

○ 生ごみについては、水分の含んだ食物残渣は少なかったことから、水切りの徹底は市民に浸透しつつあるが、生ごみの量には反映されていない状況であった。

○ 軟質プラスチック・電磁的記録媒体については、内容物を見ると、軟質ビニール類が多く入っていたことから、市民が容器包装プラスチックと軟質ビニール類を適正に分別が出来ていることと推測する。

○ その他(靴、かばん、ぬいぐるみ、ゴム製品、木材、割りばしなど)については、燃やせるごみとして適正に出されていたが、今回は使用済み紙おむつの混入が多かったことから、市民は無料で出せる紙おむつを市指定収集袋を使用し、排出している状況が見受けられた。